

## 操作履歴及び緊急度記録システム —緊急度判断支援システムを対象として—

須之内孝友

軽症で救急外来を安易に使う「コンビニ受診」が全国の病院で問題になっている。コンビニ受診の背景として、共働きによる時間内受診が困難になったこと、核家族の家庭が増えたこと、またそれに伴う育児経験や知識の不足などが考えられる。そういった状況から、病児の親の心理は不安傾向に傾き、夜間帯は一層その傾向を強めている。コンビニ受診が増加することで、小児科医は負担が増え、急を要する患者をも圧迫している。コンビニ受診を減らす目的として、保護者の不安を軽減させるもの、救急センターを用意するものなど様々な試みが行われている。

モバイルサイトとして提供されている **kodomo-Q** を対象にして、操作した履歴と緊急度判断結果、利用した時間を記録することが出来るシステムを作成することで、救急受診において子どもの病状を伝える際の情報として利用ができるシステムを開発することにより、小児医療従事者の負担軽減をはかる事および保護者の不安軽減を目的としている。**kodomo-Q** は、生後1ヶ月～6歳の子どもの保護者を対象に、携帯電話を用いて子どもの病気の状態から緊急度の判断を行い、救急受診の必要性を判断する保護者の支援システムである。記録するデータは、保護者が **kodomo-Q** に入力する年齢、体温、症状という操作の履歴と、操作に応じて **kodomo-Q** が返した緊急度である。また、**kodomo-Q** のデータを記録する際に、利用した時間も同時に記録することにした。

操作履歴及び緊急度記録システム機能が可能となった。ブラウザ表示機能、ダウンロード機能の二つの機能で実装することが出来た。

**kodomo-Q** システムに、操作した履歴と緊急度判断結果、利用した時間を記録することが出来るシステムを作成することで、救急受診において子どもの病状を伝える際の情報として利用ができるシステムを開発することにより、小児医療従事者の負担軽減をはかる事および保護者の不安軽減に繋がったと思われる

(指導教員 岩澤まり子)